

# 国際フォーラム 『被災地・広野町から考える』

International Forum "Thinking from Disaster Affected Areas"



レセプション (24日 ニッ沼総合公園)



開会式 (25日 公民館)



復興公営住宅入居者との共生について考える (25日 中央体育館)



オープニングセッション 世界におけるフクシマ (25日 公民館)



5年間の振り返り (26日 公民館)



大茶会 (25日 ニッ沼総合公園)



30年後の故郷に贈る 福島県浜通り高校生  
ベラルーシ共和国視察報告 (26日 公民館)



海外の視点からの福島 軽食を食べながら考えよう (26日 公民館)



被災地から「子守り」を考える@双葉ワールド (26日 公民館)



福島をいかに海外とつなぐか -情報発信者としての役割- (26日 中央体育館)



クロージングで『被災地・広野町』からのメッセージを発表

11月25日(金)から27日(日)にかけて「被災地から考える」のテーマのもと、国際フォーラムを開催しました。開催に際しては、平成27年9月に発信した「被災地・広野町」からのメッセージを受け、被災地における様々な課題について議論するため、昨年度の取り組みを発展させ、広野町だけに留まらず、双葉地域の有志や被災地で活動している専門家からなる「企画・運営会議」を設けて検討を重ねてきました。

期間中の様々なセッションでは、双葉地域を中心とした被災地における課題を海外からの招聘者を交えて議論しました。その際には、町民の皆様のご協力、ご参加をいただきました。誠にありがとうございます。

その結果、最終日にはメッセージを発表することができました。各セッションを経て得られた教訓から、海外を含めた被災地の外から「被災地を

見る目」との交流やその目に対する適切な情報発信が「被災地から考える」上で非常に重要であることがわかりました。今後は、これまで主にそれぞれの被災地で行ってきた課題対応について、地域間での連携を図ります。

当フォーラムの詳しい内容については、今後報告書を作成するとともに、主なセッションの動画をYouTube広野町公式チャンネルに掲載します。

主催：国際フォーラム企画・運営会議  
共催：東京大学アイソトープ総合センター、福島大学、東日本国際大学、熊本学園大学、福島工業高等専門学校  
後援：カナダ大使館、フランス大使館、福島県、いわき市、復興庁福島復興局